

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、平成30年度学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を項目ごとにまとめた。

(1) 発音・文強勢（【1】発音・文強勢問題 正答率 50.3%）

会話文において、cat, imagine, same, fun の下線部の母音の正確な発音が身に付いていない。また、発話や応答の内容において、強勢を置いて伝える情報を適切に判断できない傾向が見られた。

(2) 語彙力（【2】語彙問題 正答率 62.7%）

選択式問題（5問）と記述式問題（breakfast, leave）の正答率は60%以上で、基本的な語彙は定着していた。一方で、正答率が40%未満であった記述式問題（dictionary, ready）では、つづりの誤りよりも別の語を解答する誤答が多く、文脈の中で正答の語を用いることが理解できていなかった。

(3) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 76.7% 【4】文法・表現問題 正答率 74.6%）

ア 【3】文法・語法問題は、全大問の中で最も正答率が高く、特に make + （代）名詞 + 形容詞の用法や、接続詞 because の用法はよく定着していた。

イ 【4】文法・表現問題も正答率が高く、会話の内容に応じて文法の知識を活用することはおおむねよくできていた。特に、Here you are の表現や、受動態の用法はよく定着していた。

(4) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 69.1%）

会話の展開を理解し、適切な表現を用いることはおおむねよくできていた。一方で、正答率が40%未満であった設問(4)では、やり取りの内容から、会話の場面を正確に把握できない傾向が見られた。

(5) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率 48.6%）

全大問の中で最も正答率が低く、特に所要時間を尋ねる How long does it take ...? という疑問文を用いて表現することができていなかった。

(6) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 59.6%）

登場人物の行動と気持ちを関連付けながら、物語の展開を正確に捉えられない傾向が見られた。

(7) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率 62.9%）

まとまった内容の会話を聞き、状況を正確に理解することができない傾向が見られた。